

## 第1回船橋市緑の基本計画改定委員会会議録

日 時 令和7年8月21日（木） 10:00～11:53

場 所 船橋市役所 7階 705会議室

出席委員	木 下 剛	千葉大学大学院園芸学研究院 教授
	鈴木 弘 行	樹木医
	花 村 義 久	NPO法人シビルまちづくりステーション 会長
	岩 崎 まゆみ	グリーンアドバイザー フラワーコーディネーター
	湯 浅 健 治	市川市農業協同組合 船橋地区青年部
	高 宮 幸 子	船橋商工会議所 女性会 副会長
	田 中 裕 治	船橋市自治会連合協議会 常任理事（北部地区）
	加 瀬 武 正	船橋市自治会連合協議会 副会長（東部地区）
	長 濱 義 夫	船橋市自治会連合協議会 副会長（中部地区）
	文 川 和 雄	船橋市自治会連合協議会 副会長（西部地区）
	堀 江 義 一	船橋市自治会連合協議会 副会長（南部地区）
	高 橋 孝 次	建設局 都市整備部長
	大 島 祐 一	環境部 環境政策課長
	松 丸 奈美枝	市民生活部 市民協働課長
	津 田 直 哉	経済部 農水産課長

事務局	建 設 局	平塚局長
	公 園 緑 地 課	芝原課長、関谷課長補佐、本間係長、伊藤主任主事、三橋副主査、亀井主事

次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 議事
  - （1）会長、副会長の選任について
  - （2）緑の将来像及び基本方針・計画目標について
    - ・緑の将来像について
    - ・緑の将来像図について
    - ・基本方針及び計画目標について
4. 事務連絡  
次回の委員会開催
5. 閉会

傍聴者 1名

会議の公開・非公開の区分 公開

## 10時00分開会

### ○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

皆様、おはようございます。定刻となりましたので、始めさせていただきますと思います。

本日は、お忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。ただいまより第1回船橋市緑の基本計画改定委員会を開催いたします。

司会を務めさせていただきます公園緑地課課長補佐の関谷と申します。よろしくお願いいたします。

本日の委員会は1時間30分程度を予定しております。以後は着座にて進行させていただきます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。上から順番に、「会議次第」、次に「委員一覧」、次に「席次表」、次にスライド資料、次に「緑の将来像図（案）」、次に「緑の将来像及び基本方針・計画目標の検討」、A3判の資料でございます。以上でございますが、資料が不足されている方はいらっしゃいますでしょうか。

皆様には緑化推進委員会として既に本計画の改定に向けてご協力をいただいておりますが、改定委員会としては第1回の委員会でございますので、委員の皆様には委嘱状及び辞令の交付を行います。順番にお名前を読み上げますので、その場でご起立ください。

（平塚建設局長より各委員に委嘱状及び辞令の交付）

### ○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

以上をもちまして、委嘱状及び辞令の交付を終了いたします。

続きまして、今回の委員会から新たに委員になられた方がいらっしゃいますので、ご紹介いたします。

利用者代表の立場から、船橋市自治会連合協議会副会長、長濱義夫委員でございます。

### ○長濱委員

よろしくお願いいたします。

### ○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

船橋市自治会連合協議会副会長、堀江義一委員でございます。

### ○堀江委員

よろしくお願いいたします。

### ○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

また、市職員につきましても4月付で変更がありましたので、紹介をいたします。

都市整備部長、高橋孝次委員。

### ○高橋委員

高橋です。よろしくお願いいたします。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）  
環境部環境政策課長、大島祐一委員。

○大島委員

4月から環境政策課の課長になりました。よろしくお願いします。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

よろしくお願いいたします。

本日は、改定委員会としては第1回の委員会ですので、会長選出までの進行は事務局に一任させていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

ありがとうございます。

では、続きまして、平塚建設局長よりご挨拶申し上げます。

○平塚建設局長

改めまして、建設局長の平塚でございます。

本日は、委員の皆様には大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

船橋市緑の基本計画は、平成9年に策定いたしまして、その後、改定版、改定第2版を策定しております。このたび、前回の策定から8年が経過したため、見直しを行うこととしております。

緑の基本計画は、市民の皆様と行政が一体となって取り組む緑のまちづくりの共通目標、指針となるものですので、市民の皆様の意見を反映した計画にできればと考えております。

本委員会の皆様におかれましては、ご指導、ご意見のほどをよろしくお願いいたします。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

本日の委員会においては、14名の委員に出席いただいておりますことから、船橋市緑の基本計画改定委員会設置要綱第5条第2項に規定されております開催の要件を満たしていることをご報告いたします。

なお、須賀委員、加瀬委員は、所用のためご欠席（後刻、加瀬委員は出席）との連絡を受けております。

最後に、会議の公開、傍聴についてご説明をさせていただきます。本会議につきましては、不開示情報が含まれておりませんので、船橋市情報公開条例第26条の規定により公開となります。また、船橋市附属機関等の会議の公開実施要綱の規定により、発言者の氏名を記した会議録を公開することとなります。

傍聴につきましては、傍聴者定員を5名として市のホームページに掲載させていただきましたことをご報告いたします。なお、本日、1名傍聴者がいらっしゃいます。

それでは、議事に入る前に傍聴者の方に入場していただきます。

(傍聴者入室)

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

傍聴者の方は、受付の際にお渡ししました船橋市緑の基本計画改定委員会傍聴要領の内容に従って傍聴されるようお願いいたします。

それでは、議題（１）、会長及び副会長の選任についてお諮りいたします。

会長及び副会長は、船橋市緑の基本計画改定委員会設置要綱第４条第２項の規定により、委員の互選となっております。会長に立候補なさる方、または推薦をされる方、いらっしゃいますでしょうか。

花村委員。

○花村委員

花村でございます。会長を推薦させていただきたいと思いますので、よろしいでしょうか。

今まで会長をなさっていただいた木下会長に新たに、創立以来からずっとご尽力いただきまして、また、ここまで育てていただきましたけれども、今までの会長ということで、木下委員に会長をお願いしたいと思います。ご推薦申し上げます。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

会長に木下委員をと推薦がありました。皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

それでは、木下委員、会長をお引き受けいただけますでしょうか。

○木下委員

ありがとうございます。謹んでお引き受けいたします。よろしくお願いいたします。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

ありがとうございます。

続きまして、副会長の互選に入りたいと思います。立候補なさる方、または推薦をする方、いらっしゃいますでしょうか。

木下会長。

○木下会長

副会長には、鈴木委員。鈴木委員は、緑化推進委員会のやはり副会長としてこれまでご尽力いただいております関係で、鈴木委員を副会長として推薦させていただきたいと思います。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

副会長に鈴木委員をとご推薦がありましたが、皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

それでは、鈴木委員、副会長をお引き受けいただけますでしょうか。

○鈴木委員

はい、引き受けます。よろしくお願いいたします。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

木下会長、鈴木副会長は会長、副会長席に移動し、ご挨拶をお願いします。

（木下委員、鈴木委員、正副会長席に移動）

○木下会長

ただいまご推挙賜りました木下と申します。

私は、緑化推進委員会のほうもこれまで会長をさせていただいております。この委員会は、皆さん、特に市民委員の皆様から毎回活発なご発言をいただいて、また、有意義なご指摘、ご意見をいただいていたところでした。

今般の緑の基本計画の見直しというのは、これまで緑化推進委員会の中で検討してきた議題の中でもとりわけ重要なことになろうかと思えます。今まで議論してきたことを総括して、束ねて、一つの計画として示すという非常に大事なプロセスかと思っております。

今回は計画の改定ということで、また時代背景とか制度のところとか、いろいろな変化がございますので、船橋市でも様々な課題やニーズが出てきていると思えます。それを十分に反映させて実のある計画にしていきたいと思いますので、引き続き、委員の皆様には活発なご意見をいただければと思います。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木副会長

副会長のほうを承りました鈴木です。よろしくお願いします。

木下会長が言われたとおり、この会議はすごく委員の皆さんの発言が活発で、意見が出続けるというすばらしい会議だと思っています。

私自体、船橋市に生まれて今まで育っていきまして、こういった船橋市の緑の基本計画に携われるのはとてもうれしいので、皆さん、よろしくお願いいたします。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

ありがとうございました。

事務局からは以上となります。

それでは、船橋市緑の基本計画改定委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づき、議事の進行は木下会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○木下会長

ご案内ありがとうございます。皆様、改めましてどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速、議事に入っていきたいと思います。

今回は、緑の将来像と基本方針、計画目標というテーマになっております。これまで緑化推進委員会におきましては、船橋市の緑の課題等について皆様に議論をしてきました。今回は、今申し上げましたように改定委員会ということで、これからの船橋市の目指すべき姿についてご議論をいただくというふうに考えております。

それでは、事務局より説明をお願いいたします。

#### ○事務局（公園緑地課 本間係長）

事務局の本間と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

配付している資料とともにモニターを用いて説明いたしますので、設営が終わりますまで少々お待ちください。

では、事前に配付させていただいておりますA3判の資料、お手元にも配らせていただいています資料について、スライドを用いて説明させていただきます。このモニターに映っているものとお手元に配付しておりますスライドの資料は同じものになりますので、見やすいほうでご覧いただければと思います。お願いいたします。

まず、本委員会のスケジュールについてです。

昨年度までは、緑化推進委員会におきまして、現況調査やアンケート調査、課題等について議論や整理を行っていただきました。今年度からは改定委員会に改めまして、今回の委員会の議題となります基本方針、目標から、第2回委員会の施策の検討、また、第3回改定委員会で予定しています地域別計画や計画素案、ここまでを今年度の令和7年度に行う予定です。来年度の8年度は、パブリックコメントを経て、9月頃をめどに開催を予定しております第4回改定委員会におきまして、計画案を策定するというスケジュールを考えております。

では、ここで船橋市の現況について簡単に説明をさせていただきます。

現在、本市は人口がまだ増え続けている状況です。皆様もご存じかもしれませんが、今年には人口が65万人を突破しました。

このスライドは、令和元年に本市が作成いたしました人口推計のグラフでございます。人口推計においても令和15年度までは人口が増加するというのを推計しておりまして、その後、緩やかに減少に転じると予測をしております。現在のところ、この赤線を引っ張っている場所が令和7年度頃になりますが、人口推計どおりの人口増が続いている状況でございます。

次に、本市の土地利用の状況についてご紹介させていただきます。

先ほど人口増が続いていますとお伝えしましたが、それと比例するように住宅用地についても増加の一途をたどっているという状況です。逆に、農用地や山林などの自然的な土地利用については、おおむね減少傾向となっております。

今の自然的土地利用の減少傾向の証左の一つとしてなのですけれども、こちらのスライドは、樹林地であった場所が宅地化されたというところのご紹介でございます。平成25年には真ん中の部分に森が広がっている場所があるかと思うのですが、そこが令和6年度にはもう宅地化されているという形になっておりまして、このような形でどんどん住宅用地が広がっているという状況でございます。

以上が船橋市の現状の簡単な説明でございます。

次に、現行計画のこれまでの検討についての振り返りでございます。

昨年度、アンケート調査を行いました。このアンケート調査の結果をいくつかご紹介させていただきます。

まず、市民アンケートとして、住まいの近くで日常的に目に映り、触れ合うことができる緑はあるかという設問を立てさせていただいたところ、「多くある」「満足できる程度にある」と答えた人の割合が令和6年度で44.8%と、過去と比べまして、若干ではありますが増加していることが分かりました。先ほどご紹介しましたとおり、農用地や山林などの自然的な土地利用については減少傾向ではありますが、満足度としましては、普通であれば減ってしまうことが想起されますけれども、アンケート結果では増えているという状況でございますことから、身近な緑は、徐々にではありますが、増えていっているのではないかと考えてございます。

次に、公園の利用方法についてのアンケートです。散歩の割合が5割近くということで、公園の利用としては散歩が一番多いということが分かりました。

このスライドは、アンケート調査の自由意見などから公園のイメージやニーズについて割り出しをしたものです。このスライドは、自由意見で頻出した単語が大きく示されるような形でつくっております。赤い丸を何個かつけておりますが、「緑」というワードも大きく出ていまして、そこからは緑の豊かさ、また、「近く」「広い」や「散歩」「遊具」、「できる」などからは、近さや広さ、使いやすさというものを公園に対して重要視していることが分かってきました。

次に、緑に求められている役割についてアンケートを取りました。以前から関心が高い項目として、上の①、②、③と並んでいますような「遊びや体を動かす場」や「良好な景観の形成」、「自然を感じる場」などが挙げられております。これは以前から高い役割として認識されていましたが、今回のアンケートでは、「防災・減災機能」や「地球温暖化の防止」、「生物の生息環境の保全」といった役割についても関心が向上していることが分かりました。

次に、市が取り組んでいる緑化活動等の認知度についてのアンケートを取りました。その結果、左側は、知っている活動はありますかというもの、右側は、緑化するに当たって市の必要な支援というものは何かありますかというところを問うたものです。どちらの回答も「ひとつも知らない」ですとか、必要な支援についても「特にない・わからない」というところが多くて、緑化について認知度が低く、向上するために働きかけていく必要があるということが分かりました。

以上がアンケート調査結果となります。

次に、現行計画の計画目標とその進捗についてご説明させていただきます。

まず、現行計画では3つの目標を掲げております。

1つ目の目標は、樹林地の確保です。ここで言う樹林地とは、都市緑地や市民の森、指定樹林などの制度によって保全されている樹林地の面積を示しております。こちらは平成25年から平成29年にかけて指定樹林等の減少により大きく減少しておりますが、その後は微増の傾向となっております。しかしながら、226ヘクタールという令和7年度の目標値にはなかなか及ばず、市街化が進んでいる本市においては、目標を達成することが非常に難しいという状況となっております。

2つ目の目標でございます都市公園についてです。都市公園面積は、平成26年に198ヘクタールだったものが令和6年には220ヘクタールとなっております。この20年間、20ヘクタール以上の増加をしているものの、令和7年度の目標値であります231ヘクタールには10ヘクタール強及ばず、なかなか達成することが難しいと考えております。また、長期目標であります令和17年度には257ヘクタールを目標としておりましたが、そこには37ヘクタールの差がございまして、この大きさは東京ドーム8個分に相当する規模にな

りますので、なかなか実現が厳しいという状況になっております。

3つ目の目標は、市民協働の推進です。市民協働として、現在、ふれあい花壇や町会等への清掃委託等を行っておりますが、実施箇所数や委託団体数についてはおおむね横ばいの数値となっております。また、花苗サポーター活動につきましては、前回の計画から始まりました新規事業ということもありますので、参加数は増えている状況ではございますが、ここ数年は参加人数としては横ばいの状況となっております。

次に、昨年度の緑化推進委員会での議論について、振り返りをさせていただきます。

まず、計画改定における課題とその対応への視点につきまして、令和7年3月に行われました第3回委員会の結論として4点が示されましたので、振り返りをさせていただきます。

1点目は、公園整備やルールづくりなど、地域に適合した公園の在り方を検討していこうというものが整理としてありました。

2点目は、防災・減災の観点やグリーンインフラの活用など、自然の力を活用してニーズに対応していこうということが挙げられております。

3点目は、みどりへの関心の向上です。先ほどのアンケートにもありましたように、緑の活動を知らない、分からないという答えが最も多いというところでしたので、緑の取組について周知啓発が必要であろうということになりました。

4点目は、市民協働、官民連携の強化です。今までの計画では市民の皆様にご参加いただく活動が多かったところでありますが、今後は、事業者も含めたあらゆる関係者において緑化の推進をしていくこと、また、民有地も含めた活用が必要であるという整理がされました。

次に、国や市が示しております緑のまちづくりについて、触れていきたいと思います。

まずは国についてです。昨年度の第2回緑化推進委員会で簡単にご紹介させていただいておりますが、令和6年12月に国から緑の基本方針というものが示されました。その中には、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、**Well-being** という3つの目標やキーワードが示されております。また、自治体が策定する、今回改定する緑の基本計画は、国が示しました緑の基本方針に基づいて策定するようにということが求められているところでございます。

次に、市についてです。船橋市の総合計画においては、まちづくりの基本的な方向性として、5つの「めざすまちの姿」というものを掲げております。この5つのうちの1つとして、ここに書いてありますとおり、「快適で豊かに暮らせる、人と環境にやさしいまち」というものを定めておまして、この「めざすまちの姿」に向けてまちづくりを進めていくことになっております。

また、まちづくりの根幹であります都市計画マスタープランにおきましては、水と緑の環境づくりという分野において、基本的な考え方として、地域の特性を生かした公園づくりですとか、グリーンインフラが持つ多様な機能の活用というものが定められているところでございます。

以上が昨年度の緑化推進委員会でご議論、またはご紹介等をさせていただきました内容になっております。全員にお配りさせていただきましたA3判の資料の1枚目も今の振り返りの内容となっております。

そして、今回の議題については、A3判の資料で言えば2枚目に当たります。スライドでは22ページ以降になりますが、今回の議題についてご紹介させていただきます。

今回の議題は、今までの検討や国及び市の動向等を踏まえまして設定しております。議題（1）は緑の将来像について、（2）が緑の将来像図について、（3）が基本方針及び計画目



標についてです。まずは事務局にて作成させていただきました案について説明をさせていただきます。

議題（１）の将来像についてです。

将来像としては、「歩こう・ふれよう『緑・水・ふるさと、ふなばし』」としております。これは現行の計画から変更しているものではございません。変更しなかった理由として、緑に求められるものに新たな要素というのは確かに出てきているところですが、緑の持つ機能や緑化を推進していくといった大きい方向性には変化がないことから、今回の改定においても変更せずにいきたいと考えております。

ただ、この緑の将来像は、先ほどの標語がありましたが、説明文も一緒に計画に位置づけをしていきます。説明文につきましては、将来像は変わっておりませんので、大規模な変更ということは考えておりませんが、これまでの検討においてキーワードとして出てきました防災・減災や生物多様性、緑の機能を活用していくことなどを明確にすることとしまして、赤字の部分を加筆させていただきました。

加筆した箇所ですが、まず、２段落目を丸々加筆しています。ここでは、緑の機能として、防災・減災、また、都市環境の改善、生物多様性の保全など、緑は様々な機能を有していますということを改めてここであらうことといたしました。

また、４段落目につきましては、緑の多面的な機能を生かしていくことを明記して、グリーンインフラの活用を進めていくことを目指していきたいと思っております。

５段落目には、真ん中の辺りに「健康」という文字を足しておりますが、この「健康」という文言を追加することによって、身体的な健康の維持はもとより、緑がもたらす安らぎという精神的な健康の増進も図っていききたいと考えたところでございます。

以上が議題（１）の緑の将来像についての説明でございます。

次に、議題（２）の将来像図についてです。配付した資料ではＡ４判で示させていただいているかと思えます。スライドにも出てございます。

緑の将来像を具体的に図化したものがこちらの将来像図になります。

この図の見方として、まず、近隣公園以上の公園や大規模な緑地などを水と緑の拠点と銘打ちまして、緑の点線の円で記載をいたしました。また、連続した街路樹についても黄緑の線で記載をしております。また、地域を南北に貫いている矢印がありますが、こちらは南北環境軸、また、東西方向には緑の東西軸として、都市計画マスタープランにも位置づけられているものをプロットしております。

この将来像図を見るポイントは、事前に配付させていただいている資料にも書いておりますが、３点あると考えております。

まず、１つ目のポイントは、南北環境軸を中心として、緑を保全するエリアというものを設定させていただきました。濃い緑で塗ってある部分を緑を保全するエリアに設定するとともに、その拠点となります（仮称）二和地区近隣公園の整備を位置づけております。これは、二和向台駅前に国家公務員宿舎の跡地がございまして、現在、ここを市が取得しまして市有地として活用を予定しております。ここに１ヘクタール規模の公園を整備するものでございます。また、これ以外にも、千葉県が整備する予定の海老川調節池や（仮称）葛南広域公園についても、黄色い丸で構想として落とさせていただいております。

２つ目のポイントは、薄い緑で示しておりますが、緑の機能の発揮に向けて適正な管理を推進するエリアというものを設定しました。これは、市内の４か所がございます風致地区と、農地や草地等がある程度広がっているエリアを範囲としておりまして、適正な管理を推進し、

より質の高い緑の確保を目指すエリアとしております。

3つ目のポイントは、市街化が進む地域におきまして、近隣公園のような中規模以上の公園を拠点として、その拠点同士をつなぐ街路樹や街区公園などをつなぎ、緑のネットワークの形成をしていきたいと考えております。市街化が進んでいるエリアについてはピンク色で示させていただいておりますが、緑を創出、管理し、周辺とのネットワークの形成を促すエリアと位置づけておりまして、街区公園、街路樹等によりネットワーク化を図っていききたいと考えております。

以上が議題（2）の将来像図についてでございます。

最後に、議題（3）の基本方針及び計画目標についてです。まずは基本方針についてご説明させていただきます。

基本方針につきましても、将来像と同様、大きな変更は考えておりません。現行計画と合わせて4つの基本方針を示そうと考えております。ただ、一部変更しておりまして、そこが赤字で記載している箇所になります。

基本方針の1つ目には、「共生」という文言を入れさせていただきました。ご紹介のとおり、市街化が進む本市におきまして、緑が失われていく中で、自然との共生という言葉により明確に打ち出すことを目的に加筆しております。スライドに3つのワード、「環境軸を中心とした魅力的な緑の保全」や「生物多様性への配慮」、「水や緑に触れ合えるような施設整備」というものを書いておりますが、この表題にあります基本方針のワードは、実施する重要な概念であると考えておりまして、計画にも位置づけをしていきたいと考えております。

また、先ほど国の考え方を紹介させていただきましたが、ネイチャーポジティブという考え方が国のほうで示されております。環境省によりますと、ネイチャーポジティブとは、生物多様性の損失、負の流れを止めて、回復、正の流れに反転させることだと定義されております。この基本方針により、生物多様性への配慮や緑の保全等によりまして、ネイチャーポジティブの実現を図っていききたいと考えております。

次に、基本方針の2つ目についてです。従前は、この基本方針は「多様な緑により、風格ある緑の都市をつくります」というものでございましたが、緑をいかすこと、また、船橋らしいというものを加筆することにより、より船橋に即したものとしていきたいと考えております。これにより船橋に残る緑を活用し、船橋らしい緑の都市の実現を目指します。

具体的な部分としましては、南北の海老川や社寺林、斜面緑地、また、北部の自然、風致地区などを念頭に、地域の特徴に合わせた緑の保全、活用を行っていきます。また、樹林地や公園だけでなく、街路樹や民有地も含めました多様な施設の緑化を進めていくことも重要と考えております。さらには、現在、ボール遊びができる公園を運用しておりますが、船橋らしい公園利用のルールづくりなどで、今ある公園の活用も進めていきたいと考えております。

基本方針の3つ目です。ここには「環境にやさしく」という文言を加筆させていただきました。この環境とは、生活環境から都市の環境、また、生物の生息環境まで幅広い意味を含めてこの文言を加筆しております。緑の多面的な機能を生かすグリーンインフラの活用をはじめ、関心の高かった防災・減災や都市環境の改善に関する部分を盛り込んでいきます。また、この写真にもありますように、防災時に活用できるような設備の導入などによりまして、皆様の緑の満足度の向上につながるような質の高い緑を増やしていきたいと考えております。

基本方針の最後の4つ目です。こちらは市民協働、官民連携につながる部分でございます。文言としては「事業者」という言葉を加筆させていただきました。現在、市民協働の部

分については、先ほどもご紹介させていただきましたが、現状維持の状況になっております。また、今後も進むことが想定されています高齢化によって、活動の継続が難しくなっていく可能性も考えられると思います。これからの連携につきましては、市民の皆様はもとよりですけれども、民間事業者との協力も必要となっていきます。また、緑化活動の普及・啓発にも努めていくことにより、市民の皆様や事業者の皆様にも緑化について関心を持っていただき、市民協働、官民連携につながっていくことにより、市全体での緑の都市の実現につながるものと考えております。

なお、ここに掲げています写真は官民連携の一例でございます、J R南船橋駅の南側にある市民緑地というものでございます。こちらは事業者が整備して維持管理をしていく緑地でございます、ここは商業施設の隣に約5,000平米ほどの広場状の空地が整備されておりまして、芝生広場や遊具広場、ドッグランなどが無料で開放されて、駅の利用者、商業施設の利用者が憩える場、また、周辺の住民の方が憩える場となっております。

以上4つが基本方針の説明となります。

最後に、計画目標についてです。現行計画では3つの目標を設定しておりました。今回の計画においても3つの目標を設定したいと考えております。

まず、1つ目が緑の確保についてです。進捗を測る指標としては緑被率というものを設定しようと考えております。現行の計画では樹林地の確保というものを設定しておりました。ただ、緑というものは、樹林地だけでなく、農地や草地なども含めて考えるべきだと考えたことから、樹林地だけではなく、もっと広域に捉えた緑の確保ということに定義を変えまして、測る指標を緑被率に改めたものです。

目標値ですけれども、現況は市域全体で26.4%でございますが、明確な目標値は定めずに、上昇を目指すという形で一旦目標を設定しております。

なお、この緑被率という考え方は、国の基本方針においても示されているものでございます。

こちらのスライドは、緑被率を出すに当たっての緑被の現況を測ったものでございます。これはどのように出したかといいますと、航空写真を基に、緑になっている部分が樹林地で、オレンジ色が農地、薄い黄色が草地ですが、これを落とし込んだものになりまして、実際の土地利用の状況を航空写真等を用いて判別しております。これで現況は26.4%という数字になります。見ていただいて分かりますとおり、北部や中部において樹林地や農地等のまとまりがありますが、南部にはかなり少ないという状況が見てとれるかと思います。

2つ目の計画目標です。こちらは都市公園の整備を挙げさせていただいています。この目標は、現行の計画から引き続き設定するものでございます。目標値を一部修正しております、現行計画の目標の状況としてなかなか実現は難しいというところでしたので、現時点の220ヘクタールをベースに、今後の整備計画があるもの、予定しているものを積み上げて、新たな目標値として設定をさせていただきました。

参考として、令和6年度末現在、220ヘクタールの段階の1人当たりの公園面積は3.39平米となります。予定どおり進みますと、令和17年度は3.53平米、令和27年度は1人当たり公園面積が4.05平米というふうに推移する予定でございます。今後もまずは市民1人当たり5平米をは目指して公園整備の推進をしていきたいと考えております。

次に、計画目標の3つ目、最後になりますが、こちらは緑に対する満足度の向上というもの新たに設定させていただきました。この指標は、緑化の推進を図った上で得られるアウトカム指標として設定したものでございます。都市公園の整備や質の高い緑の整備・管理、

市民協働、官民連携の推進によって、満足度の上昇を目指していきたいと考えております。アンケート調査では緑の満足度の現況が44.8%で微増ですよとお伝えしましたが、より市民の皆様が感じます緑の満足度を上げていきたいというような目標値でございます。

なお、現行計画では、この3つ目の目標として市民協働の推進を挙げておりました。今回、市民協働の推進に関しましては、各事業は当然継続していくのですけれども、事業ごとに目標の設定や進捗管理を行っていることから、計画全体の目標とはせずに、今回の満足度の向上という目標に形を変えて設定いたしました。

以上が議題3の基本方針及び計画目標についての説明となりまして、資料の説明は以上となります。

委員の皆様におかれましては、今回、資料を初めから一気に説明してしまったのですけれども、議題ごとにご議論いただきますようよろしくお願いいたします。

事務局からは以上となります。

#### ○木下会長

ご説明ありがとうございました。

ただいま、緑の将来像、それから将来像図、そして基本方針、計画目標について説明をいただきました。本日の委員会では、A3判の資料の2/2、2枚目の左上の4番の「今回の議題」に(1)、(2)、(3)とございますが、この3点を確定したいと考えておりますので、皆様のご意見をいただければと思います。

まず、冒頭にご説明いただいた緑の将来像について議論していきたいと思います。ただいまの事務局の緑の将来像の説明につきまして、ご意見があればいただければと思います。よろしくお願いいたします。

緑の将来像は、同じくA3判の資料の2枚目の左側、議題の下のところに書いてございます「歩こう・ふれよう『緑・水・ふるさと、ふなばし』」とその説明文になります。こちらの部分です。よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

これからの船橋の緑を考えたときに追加したい考え方、あるいは、守るべき具体的な緑、そういったもので加筆や追加のご意見があればいただければと思います。いかがでしょう。

このテーマについては、現行の計画と変更はないということです。ただ、この説明文に赤字の部分有加筆されております。

花村委員、よろしくお願いいたします。

#### ○花村委員

花村です。感想みたいな感じになるかもしれませんが、意見をさせていただこうかと思います。

この絵を見ていまして、まだぴんとこないような部分と分かりにくい面があるのですが、確かに見ていると非常にいろんなことが表現されているなと思います。

この中で、ふだん私どもが感じているのは、緑化と災害問題は非常に関係が強いのではないかと。例えば、海老川沿いのところに緑地がありますけれども、あそここのところの安全だとか緑地の関係なんかは非常に典型的に表している。ああいう緑地の危険地域は、今まで60か所船橋にあって、今は大分増えているらしいのですけれども、そういうものとの関係が非常に強い。ちょっと歩いてチェックしてみたのですけれども、傾斜危険地区が非常に多くて、緑と非常に関係を持っている。むしろ緑が守ってくれている。だけれども危険なとこ

ろに緑があるというか、要するに、触らないでいいという感じですか。

もう一つは、防災の立場から見ると、液状化の問題があります。例えば、私どもは例の東北の震災が起こったときに調べてみたのですが、船橋市の液状化のハザードマップを全部見て、それに対して、あのときに被害が起こったものをプロットしてみたんです。そうすると非常に地図が変わってきたというか、それは何かというと、昔、海や川があったところで、今は表面的には現れていないという地区が実は非常に被害を起こしている。これは液状化が起こって、今まで表に出てこなかったのが実はそういうときに現れてきたというようなことで、やっぱり防災と緑や地形は非常に関連しているなと思いました。そういったものがこういうところのどこかに表れているのではないかと思って見た次第です。

○木下会長

ありがとうございました。防災・減災の話かと思います。今のご意見は次のところで議論をしようと思っていました。緑の将来像図に今ご指摘いただいたような内容を反映させられないかどうかというご意見と承りました。

緑の将来像の言葉のほうに関しては、防災・減災というところが新たに赤字で付け加えられておりますので、今、花村委員からご指摘いただいたような内容は、具体的ではありませんけれども、一応、言葉としては、緑の将来像の説明文の２段落目の赤字の加筆部分に「防災・減災」という言葉が入っております、また次の将来像図のところで改めて議論をさせていただきます。

ほかにいかがでしょうか。では、副会長。

○鈴木副会長

将来像のことなので、ましてこれを改定したのが７～８年前ということなので、当然、事務局からも説明がありましたけれども、将来計画というと、イメージがころころ変わるのはおかしいので、そのままにしたのは当然かなと思います。

あと、国からの指針の中でこういうものをこれからつくって入れてくれという部分を赤字で入れたということですので、そういった意味では更新をされているので、なかなか意見が出ないのは、将来像ということで、それほど変わるものではないのかなと思うところで、新たに大きな目標を立てるほどのインパクトのある社会状況の変化はないので、感想ですけれども、よくできているのではないかなという感じはします。

○木下会長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

特になければ、将来像についてはこういう形でお認めいただいたということにさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○木下会長

ありがとうございます。

それでは、続いて、緑の将来像図についてでございます。今、花村委員からもご指摘いた

だいたこちらのA4判の資料になります。こちらについて、ご意見、ご質問がございましたらいただければと思います。よろしくお願いいたします。

高宮委員、お願いいたします。

#### ○高宮委員

「緑の将来像図（案）」というのをいただいております、気になることを質問させていただきたいのですが、この丸の大きさやグリーンの大きさは、公園の規模を表しているかと捉えてよろしいでしょうか。もしそうであれば、もう少し込み入った、例えば、ここにはこういう設備がある、ここには防災設備がある、トイレがあるというようなことも備えた感じの将来像というものを考えていただければと思います。

#### ○木下会長

大事なご意見かと思えます。ありがとうございます。

先ほど花村委員からもご指摘いただいたとおり、例えば、海老川の調節池とかは防災機能を持っているわけですし、あるいは、液状化という話もありましたけれども、埋立地の公園というのは、そういった被害が起きたときに、タンクとか、そういう防災施設を整備していたりということもあるので、例えば、防災というのもありますし、その他、レクリエーションとか、景観とか、自然環境とか、いろいろあると思うのです。その辺をうまく記号化するなり、最近だとアイコンのような形で簡単にそれぞれの主要な機能について図化できると大変分かりやすい図にはなるかなと私も思いました。高宮委員、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

先ほど花村委員から急傾斜地の話が出ていて、これは大雨等の際の崖崩れとか、そういう危険があるところかと思いますが、一方で、緑がそういった崖崩れを守っている場合もありますし、逆に最近だと、大きく成長し過ぎて木が倒れて崖崩れの原因にもなったりするというもろ刃の部分がありますが、船橋市の場合はそういう話はあるのでしょうか。

#### ○芝原公園緑地課長

事務局でございます。

船橋市も、急傾斜地は、土砂災害警戒区域等の指定が県からされているものもございます。その中に斜面緑地も一定程度含まれています。幸いなことにまだ崖崩れ等はないのですが、会長がおっしゃったように、樹林となってから大分時間が経過している関係で、木が巨木化していて、倒木のリスクが年々高まっているところもありますので、斜面の保全の中で、適正な維持管理がこれから継続的に必要になってくるだろうと考えているところでございます。

#### ○木下会長

その点は細かい施策のほうで書くのですかね。将来像図にどこまで表現できるかというのはなかなか難しいところもありますけれども。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

今日ご欠席の須賀委員様から、事前にお配りさせていただいた回答用紙に記入していただいたものを送っていただいているということで、今、手元にいただいているのですが、須賀委員からこの将来像図に関して、街路樹が表示されておりますけれども、この街路樹に対する市の考え方で、メモを拝見しますと、せっかく植えた街路樹が枯れてしまって、その

ままになっている道路も何路線かあるということで、管理も含めて今後の市の考え方みたいなものを将来像図に反映すべきではないかというご意見をいただいております。これについて皆様から、あるいは、市のほうから何か考え方があればいただければと思います。

○平塚建設局長

街路樹につきまして、私どもも同じような問題意識を持っております。適正な管理をしていかなければいけないと思っていまして、昨年度、道路部のほうで街路樹の管理マニュアルというのを策定いたしました。これは、やはり街路樹の倒木もありますし、景観面の問題もございますし、先ほどのように、枯れてなかなかそこをまだ再生できていないといったお声をいただくことも多いので、何とか少しずつでも街路樹の質を高めて、量的にも確保していこうということで、取組を始めたところでございます。

今年度からそのマニュアルに基づいて計画的にある程度重点的なところから路線の管理をやっていこうということで、今、取組を始めているところですので、そのマニュアルに基づく管理みたいなところも、これから緑の基本計画の中に反映させていきたいと思っております。この将来像の中にどう入れ込むかというのも、道路部と調整しながら検討してまいりたいと思っております。

○木下会長

ありがとうございます。今のお話を伺って、例えば、もし新規に街路樹を植えるような路線があるのであれば、そういうところは確定しているところであれば載せられるのかなと思いましたが、あるいは、植え替えや補植を今後検討していく路線がもし確定しているのであれば、それも示すことができるかなと思いましたが。今後、検討していただければと思います。

ほかに、今の話題でも結構ですし、別の話題でも結構ですが。どうぞ、お願いします。湯浅委員。

○湯浅委員

本題とちょっとずれるのですが、今やっているところは将来像図（案）ですよね。これに2／2の計画の基本方針（案）と計画目標（案）を多分落とし込むのだと思うのです。だから、会議の内容としては、先にこっちをやって、どうこういうふうにやっていくのかと会議を進めたほうが、もっとスムーズではないかなと感じたのですけれども。

○木下会長

そうですね。それはおっしゃるとおりですね。どうしましょかね。

○湯浅委員

もうちょっといいですか。

○木下会長

どうぞ。

○湯浅委員

先ほど街路樹が出ましたけれども、例えば、前回かな、自分が話したやつで、河川沿いに桜を植えてみるとか、そういう後に話したやつをこれに多分落とし込むのだと思うので、そういうのは、今、こっちを先にやっていますけれども、どちらかというと、2／2を先にやったほうが意見も出るのではないかなと。

○木下会長

そうですね。そのほうが分かりやすいですね。ありがとうございます。これは同時に議論していくべき話で、将来像図というのは最終的な図柄の話ですから。例えば、何でいきなり軸なのだ、拠点なのだという話も、基本方針を見るとよく対応関係が分かりますので、皆さん、それから事務局、差し支えなければ、今、湯浅委員からご提案いただいたとおり、順番を変えても大丈夫ですか。

○事務局

はい。

○木下会長

そうですね。おっしゃるとおりです。

では、将来像図のことを念頭に置きながら、基本方針、それから基本目標ですね。将来像はこういったテーマと説明でよろしいというご了解をいただきました。これを具体化したものが基本方針、それから計画目標になりますので、まずそちらからご議論いただいて、こういったことがこの将来像図にしっかりと反映されているかどうかという順番で議論ができればと思います。

では、基本方針、計画目標も併せてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

先ほどの事務局の説明では、基本方針も大枠の4点は現行の計画と変更なし、ただ、この赤字の部分が加筆されているということでした。計画目標は、特に（変更）とあるところと（新設）というところの修正がなされておりますので、その辺を踏まえつつご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

口火を切らしていただきますけれども、今の事務局の説明の中で、まず、計画目標の緑の確保は、もともとは樹林地の面積を目標にしていました。今の説明ですと、緑というのは樹林地だけではないので、草地、農地もという話でした。ですが、先ほどの説明の中で、なかなか指定樹林は増やしていくのが難しいというところで、やはり現実的に増やしていける項目を目標にすべきであろうというふうに私は解釈しましたがけれども、「樹林地」ではなくて大きな「緑の確保」という目標に変わっていることについて、委員の皆さんから特に異論や反論がないかどうかといったところを伺いたいと思うのですが、これはよろしいですか。

先ほどの説明では、別に樹林地を具体的な目標に定めなくても、個別の施策の中で樹林地の確保というのは引き続きやっていくというご説明でしたので、樹林地を無視するというわけではないということです。よろしいですか。

○鈴木副会長

事務局に質問です。緑被率に変えていくのはいい思うのですけれども、農地の場合も航空写真から取ったデータで押さえるのかということと、農地の中に結構ハウスとかもあるじゃないですか。ハウスは除かれるのかというのを聞きたいのですけれども。含まれては困ると



ということです。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

先ほど説明でありました航空写真から見せていただいております。この写真から見て農地と分かる部分は拾って、建物の部分は除いてという形で。

○鈴木副会長

ハウスとかは入らないということですね。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

はい。そういう形になっています。

○鈴木副会長

了解です。

○木下会長

ほかにいかがでしょうか。湯浅委員、お願いします。

○湯浅委員

自分は農家なのですが、農地が緑被率に関係するということで、畑は空いているときもあれば食物が埋まっている状態もあるんですよ。それはどちらで取るのか、航空写真でちゃんと出ているのか。例えば、別に作物をつくっていなくても、字は違うのですが、緑肥というのがありまして、こういうものを利用して地力を守るといえるのか、地力を上げていくとか、そういう方法もあるんですね。だから、確保するときに、本当に取り組むのだったら、空いている時間は緑肥などを利用してもらって緑被率を上げるみたいなことも一応できないのではないのでしょうか、その場合、空いているところと空いていないところでどう取られるのかちょっと不透明だったので、質問させていただきました。

○木下会長

では、よろしくお願いします。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

航空写真から見ておりますので、例えば、畑は、やっている場合には営農している状態が分かると思います。休んでいるときには、恐らく草が生えたりしていますので、この場合は……

○湯浅委員

草は生やさないです。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

生やさないですか。では、土の状態であれば農地として見ています。草が生えてしまっても、もし休耕地であれば、多分、草地としてカウントすることになると思いますので、緑被率に

は入っています。ただ、今、委員からご紹介いただきました緑肥は、航空写真上、どのように見えるかが我々もまだ想像がついていないのですけれども、除いている部分でもしあるとすれば、今後、算定するに当たって踏まえることができるかどうか確認してみたいと思います。

○湯浅委員

空いている状態でも、緑肥などを入れている状態でも、この緑被率が動くかどうかというのがちょっと分らないです。4月に収穫して終わって、そのままトラクターでうなって畑のままにしていくなつは、緑肥はないですね、そのまま畑の状態。トラクターでうなって畑の状態にしておく。緑肥を入れておくだけで緑は増えていると思うんですよ、実質は。分かりづらいですか。作物が入っていないなくても……

○事務局（公園緑地課 本間係長）

そうですね。土の状態であればカウントしています。この中に入っている状態です。

○湯浅委員

でも、緑肥を入れていると緑は目に見えて増えていますよね。例えば、ヒマワリとかもあるんですよ、景観緑肥みたいなやつで。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

緑被率算定に当たっては、農地という部分をカウントしてまして、農地の見方としては、作物が生えている状態もそうですけれども、畝をつくった段階、土の状態でもカウントしていますので、どちらの状況であっても、緑被率のパーセンテージ、数字にはカウントしている状態になると思います。

また、参考ではあるのですけれども、パーセントで示しておりますが、大体0.1%増えるには8.5ヘクタールぐらい増えないと0.1%に影響しない数字になっています。もちろんちゃんと拾っているつもりですけれども、そこは数字にはあまり見えてこない部分も…

○湯浅委員

0.1%が8ヘクタールですか。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

8.5ヘクタールです。

○湯浅委員

じゃあ、東京ドーム2つ分になる。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

そうですね。

○湯浅委員

分かりました。

○木下会長

これは、ですから、こちらの図のところにもありましたけれども、計測の方法や項目をちゃんと説明するということをお願いできればと思います。これは計画の本体のほうに書く話かなと思いますが。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○長濱委員

今の緑被率ですが、これは単純に見て、今、海老川沿いに畑があって、そこは宅地開発をばんばんやっていますよね。農地、草地を入れてこのパーセンテージが上がるのかどうか。逆に下がっていくのではないかという懸念があるのですが。

○木下会長

いかがでしょう。

○芝原公園緑地課長

確かに、住宅需要というのがまだ船橋市は多い状況です。ただ一方で、北部もそうですが、都市部においても、特に生産緑地ですとか、そういったものがまだ残されているところも多々ございます。今回、畑も都市にあるべきものと考えておりますので、そういったものを保全していただく、もしくはほかの用途に、公園や広場として活用するというのも、今回改めて、樹林だけではやはり難しいところもありますので、畑や草地も今回の計画の中で保全を進めていきたいと考えております。

確かに委員がおっしゃるように、海老川沿いは特に住宅開発が行われていますので、どこまでどう増やしていくかというのはすごく難しいところではあるのですが、樹林だけではなく、そういったところも併せて緑地として保全をしていこうと考えているところでございます。

○木下会長

これは公園の中の緑も入りますよね。

○芝原公園緑地課長

そうですね。入ります。

○木下会長

あと、拾えるか分かりませんが、例えば、民有地の再開発したビルの中の公開空地の緑とか、あるいは、個人のお宅のお庭の緑とか、そういうのも全て拾われますよね。なので、減る項目ばかりではない。小規模だとは思いますが、増える項目、土地も含まれているという理解でよろしいですか。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

はい。

#### ○木下会長

ほかにいかがでしょうか。

あと、もう一点、皆さんにお伺いしたいのは、満足度ですね。先ほど、アウトカム指標で、緑が増えたり、質が改善されたり、いろいろな市民活動を行った結果、市民全体の緑の満足度が上がっていくという効果を表す指標だということなのですが、基本方針のほうでは引き続き「市民・事業者との連携」というところをうたっていますので、従前の市民活動の目標値というのはこれを受ける形での目標値だったと思われますが、それがなくなって満足度という指標になっておりますが、この辺はこういう形でよろしいでしょうか。

どうぞ。

#### ○花村委員

市民の立場からということで考えていますけれども、今、生産緑地だとかあいつたものがどんどんなくなって、緑地がどんどん減って、船橋の場合は特に住宅地になっていくということで、私としては寂しい気持ちがしております。それに対して、こういう緑地が減って非常に大きくまちの姿が変わっていくということですね。これは、都市計画とか都市デザインの視点でもっと見られないものだろうかどうしても思うのです。

その中で、今、生活の立場から、市民協働だとかあいつ都市的な視点で市民のあれを見ると、その中でものの考え方のベースに、いわゆるその地域の抱えている課題をどう解決するかというようなところに大体行くんですね。そういう視点からものを今見ようとしている。

そういう視点からも含めて見ると、私の個人的なあれもかなりあるかもしれませんが、今、道を通ろうとすると、主要交通の一つにやっぱり自転車というのがありますよね。私なんかは、年をとってくるとだんだん怖くて、道路を自転車で走れないというような現象が出てきて、だけれども、自転車の要素というのは非常に強くて、その危険度がものすごく大きい。その辺のことが何とかならないものかというのは日常的に考えていることです。道路の中に自転車を入れるというのは、まちそのものをデザインし直すような気持ちがないとなかなか難しいですね。今の道路は非常に狭くていじくりにくくなっているんで、例えば、農地なんかをどんどん変えていくときに、こういう考え方をに入れていただけないものだろうかと思う次第です。

例えば、緑地となかなか結びつきにくいというのはあるのですけれども、車が通っている道路を安全に自転車で通るために、車道と歩道の間に何らかの緑というものをに入れていって、その安全を確保していくというようなことをやれないだろうか。それをやると改造の規模は大きくなりますけれども、非常に抜本的にものを考えられるようになっていく。長期計画の中では、一つの都市開発の一部としてこういう要素を入れていただきたいなど。緑の立場からもそういうことを考えている部署に何らかの形で物申していただいて、大きな発言権を発揮して、その辺を実現できるとうれしいなと思います。

#### ○木下会長

ありがとうございました。

ただいまのは大事なご意見だったと思うのですが、事務局のほうで何かあればお願いします。

○平塚建設局長

まず、自転車で安全に道路を走行することがなかなか難しいというご意見もいただいています。どうしても船橋は道路が狭くて、道路の中に、自転車の専用レーンをつくったり、青い矢羽根を設置して、自転車はそこを通行してくださいという形で、ある程度の道路幅が取れるところは、そういった形でできるだけ自転車で移動できるようなネットワークをつくらうということで進めているところでございます。

また、道路と歩道の緩衝のための緑地帯ですよね。そういったものも併せて、道路構造令という規格がある中で、それにのっとった形で幅員が取れる場合は設置していこうとしております。できるところは限られておりますので、そちらはどうしても現地の状況次第になってきますが、もちろん道路を整備するにしても改築するにしても、街路樹も含め、緑地帯も含めですけれども、緑地を確保しながら、また道路の安全を確保しながらというのは、道路のほうでも気をつけていただいているところです。

この基本計画の中にどう書いていくかというのはありますけれども、今いただいたご意見は道路のほうにも伝えた上で、これからも、特に都市計画道路等を整備するときにはできるだけ緑地も確保しながら、歩行者も安全だし、車も安全だし、自転車も安全だし、というような道路を船橋としてもつくっていったらなと思っております。

○木下会長

ありがとうございました。歩道と車道の緩衝ということもそうですし、最近は暑いので、やっぱり街路樹で緑陰をつくって、歩行者にとっても自転車にとっても、木陰の中を走るとか、そういうことができるといいなと思いました。

では、副会長。

○鈴木副会長

計画目標の緑の確保と都市公園の整備というのは量的な目標なので、数値としてすごく分かりやすいですね。そして、緑に対する満足度の向上ということで、ある意味ファジーというか、ここはどういうふうに見るのか、人によって違うと思うのです。僕はこういうのを緑の基本計画で目標にしているのをあまり見たことがないのですが、何かとてもいい気がするんですよ。実際にいくら公園が増えたって、緑が残ったって、嫌だという市民が多かったらそれはやっぱり違うのだらうなと。そういった意味で、ざっくりとしているけれども、実は市民の満足度をちゃんと押さえるというのはとても大切なので、その目標を上げることを緑の基本計画の目標とするのはすごくいいと思います。

ただ、このときに、アンケートの取り方とか、あとサンプル数ですね。その辺がすごく充実して、市民の皆さんの意見がちゃんと把握できて、本当に上がっているのだなということを確保できるような調査方法を、今までと同じでやるというよりは、プラスアルファが欲しいかなというのは感想としてあります。

○木下会長

ありがとうございました。

今のご意見について、事務局のほうでもし何かあればお願いします。

○芝原公園緑地課長

確におっしゃるように、アンケートの取り方で大きく変わってきてしまう可能性がありますし、これまでの議論でも、地域で緑の現況がまず違うということもあって、それぞれの地域ごとのニーズや緑に対する考え方が違ってきていますので、船橋市で地域の偏りがあると恐らくデータにも影響が出てしまうと思いますので、そういったところを考慮しながらデータを取っていきたいと考えています。

○木下会長

そろそろ時間が来てしまったのですが、すみません、私の仕切りが悪くて。今、基本方針、計画目標について議論をしています。これを踏まえて、そういった考え方が将来像図にちゃんと表現されているかどうかということで議論を進めようと思っていますが、いかがでしょうか。

高宮委員、ぜひお願いいたします。

○高宮委員

計画の基本方針（案）の２番の「多様な緑をいかし、船橋らしい風格ある緑の都市をつくれます」というのがございますけれども、「船橋らしい風格ある緑」をもうちょっと落とし込んで説明いただけたらと思います。船橋というのは、もともと、皆さんもご存じのように、漁業、農業、商業と、他県に負けないようなものを持っているわけですが、この中で特に２番の「船橋らしい風格ある緑」というのが私にはまだぴんときていないので、ご説明願えますでしょうか。

○木下会長

お願いします。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

「船橋らしい」というところなのですけれども、今いただきましたように、海老川ですとか、あとは、先ほども説明しましたが、船橋大神宮に代表されるような寺社仏閣というものが残っていますので、そういう部分を残していくこと、また、先ほどの議論でもありましたが、傾斜地を含め斜面緑地も、地形というものは土地、土地の由来のものになりますので、それも船橋らしいの一つであると思っています。

また、北部に広がる自然、樹林地ですとか、そういう部分も船橋らしさだと思いますので、そういうものを残していく。場所、場所によって多分残し方というのは変わってくると思いますが、そういう部分を大事にしていくというところが、この「船橋らしい」、船橋だからこそできる、船橋市に合ったような緑の都市につながるのかなと考えて、このような文言としております。

抽象的な部分が多くて申し訳ないのですが、そういうふうに考えてございます。

○木下会長

いかがでしょうか。よろしいですか。

○高宮委員

はい。ありがとうございます。

○木下会長

ほかにいかがでしょうか。今日、まだご発言いただけていない委員の方からご意見をぜひいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○文川委員

自連協の文川です。本当は今日は発言したくなかったんですけども。

まず最初に、皆さん、公園や緑地というものを増やすという観点ではなくて、私は今、西船近辺に住んでいるんですが、ご存じのとおり、西船近辺といたら、この航空写真を見ても分かりますように、緑は若干ありますけれども、ほとんどありません。昔はあったんです。30年前、40年前、私が西船橋に来たときは、緑も周りにいっぱいありました。結局、宅地開発で皆さん買われてしまったんです。要するに、税金を払うよりは土地を売ってしまって、マンションをつくったほうが実入りは多いわけですよ。アパートをつくったほうが。だから、公園とかそういうものを今後増やすということは、私はもう船橋市の予算では到底無理だと思うんですね。

そして、この航空写真を見ても、本当に僅かに緑とか茶色い土地が残っているのは、北部、東部だけなんですよ。では、これを今後どうやって保存していくか。南部とか西部なんていうのは、緑をつくっていくのは土地の価格が高くて無理なんですよ。

今日も朝、ニュースを見ていたんですけども、東京近辺では3LDKのマンションが1億円ですよ。今のサラリーマンが夫婦で稼いで借金をしてそんなの買えますか。買えないですよ。ところが、船橋に来ると、快速とかそういう電車を使えば30～40分で都心に行けてしまいます。船橋で3LDKの一戸建ての家を買っても、大体、5,000～6,000万円で買えるんです。東京都内の半分です。そういう事情を加味すれば、皆さん、やっぱりこっちのほうに移ってきますよね。東京の何とかラインという、知らないけれども、あっちのほうだともう完全に億ですよ。

そうすると、やはりデベロッパーはこっちを狙いますよね。今ある公園も緑地帯も農地も全部潰されてしまうんですよ。だから、それよりかは、つくるというのではなくて、今現在ある農地とか緑とか生産緑地とかを保存する方法のほうが私は金が少なくて済むのではないかと思うんですよ。そういうような方法で、逆の発想でこういうものを進めてみたらどうですかね。何でもかんでもつくる、つくるではなくて、今あるところを何とか優遇して残していく。

今後、西船橋とか行田とか東船橋というのはどんどん開発されますからね。だから、公園をつくっていいこうではなくて、今現在、この将来像図にあるグリーンベルト、そして、丸で囲まれた大小の近隣公園の近郊の緑地や農地を保存、維持していくというふうに考えたほうが、私はこれからの10年を見た比率が、逆にアップしていくのではないかと思うんですけどね。保存していくほうが。その辺はどうなんだろうかね。

○木下会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

○芝原公園緑地課長

都市公園をいっぱいつくっていくというのは、予算的な問題で限りもありますし、時間もかかるというのはおっしゃるとおりだと思います。計画目標の中の都市公園の整備というのは、公園をつくっていくということの目標になり1人当たり公園面積5平米を目指していきたい。一方で、委員おっしゃったように緑の確保というところで、今までは樹林地だったのですが、緑の確保の中に、樹林地も含めて、生産緑地としての畑とか、そういったものを確保したいと考えております。それは、今回、計画の中に入れさせていただきました。

もう一つは、今、拠点となるようなもの、将来像図の中で近隣公園ですとかそういったものを、ネットワーク化というのですか、緑を劇的に増やすのはどうしても難しいので、一つ一つをつないでいくような形、皆さんが触れ合っていて、緑が連続するような流れというのにも必要になってくるかなと思っています。基本方針にもありますけれども、そういったネットワークの中で、委員からご提案がありましたように、拠点の周りにある緑を保全するというのは大変参考になるご意見だと思いますので、検討したいと考えております。

○文川委員

会長、もう一ついいですか。

○木下会長

どうぞ。

○文川委員

今、事務局から聞いたところで、そのついでで言いますけれども、私も船橋に住んでもう40年ぐらいになるのですが、今、このグリーンベルトのほとんどのところで、今まで樹木を切り倒すという行為はいっぱい見てきましたが、切った後に植樹というのはほとんどしていないですね。逆に、今このグリーンベルトを大事にするのであれば、今からでもいいですから緑を植えていく。要するに、今、既にあるやつは、あと10年、15年したら切らなければいけないでしょう。老木になって倒木の可能性もあるわけですから。だから、切るのはいつでもできると思うけれども、切った後、植樹という行為をほとんど私は見ていないです。

うちの近くにも、勝間田公園とか本郷公園とか、かなり大きめの基幹になるような公園がありますけれども、虫に食われたから何とかしてくれと言うと、大概、切り倒しです。では、切った後、新しく近くで何か木を植えているか。植えていないです。切り倒してそのままです。だから、グリーンベルトのラインを伸ばすのであれば、今後、切ったら杉ではなくても違う木を植えていくというのも私は必要ではないかと思いますね。それがあと10年、15年たてば立派な木になるわけですから。

葛飾小学校の前は、前回も言いましたように、クスノキがついに切られてしまうんですよ。副会長にも聞きましたが、木を中心に4メートルか5メートルまで根っこが行っているんですよ。すぐ隣の家は根っこで持ち上げられてブロック塀がゆがんでいるんです。そこまで手当てしないと切れないらしいです。だから、そういうところは確かに切るのは仕方ないと思いますけれども、新しく切ったら植えていく、そういう形も少し考えられたらいかがかなと思います。よろしくお願いします。

○木下会長



ありがとうございました。大変大事なご意見で、新しくつくるというところがどうしても強調されがちなのですが、なくなりつつあるものを残す、いわゆる保全、保護ですけれども、それも手を抜かないというところの両方がはっきり見えるような計画にしていきたいと思いました。

それから、伐採ではなくて植え替えなのだという言い方ができるといいなと、2つ目のご意見を伺っていて思いました。

すみません。ちょっと時間を延長させていただきます。ご了承ください。

ほかに、特にご意見をいただいていない委員の方でご意見をいただけるといいと思うのですが、加瀬委員、田中委員、堀江委員、岩崎委員、ぜひ一言でもいただければ。どうぞ。お願いいたします。

#### ○田中委員

今、文川さんのご意見を聞いていてなるほどなと思いましたがけれども、実はうちのほうの近くの公園でも、前からお願いしていたというか、カブレノキ、要はハゼノキの太いのがあったんですけれども、それをようやく切っていただいて、きれいになったのはいいのだけれども、その後どうするのだろうなと。先ほど言われたように、根っこが残った状態で、次に新しい木を植えてもらえるのかどうかという気持ちはありました。それは聞き流してもらってもいいのですが。

将来図は、湯浅さんから基本方針からやるというのがありましたけれども、基本方針と併せて、ボール遊びができる公園とか社寺林等の地域の特徴、緑の保全といったところで、私は坪井の近隣公園のほうに、要はこの地図でいくと東側の端っこのほうですけれども、この将来像図を見て非常に残念に思ったのは、中央に矢印というか、軸が2本も3本も走っている。東側は何もないですね。でも、さっきの文川さんの話ではないですけれども、残していくことを考えると、東側のほうが可能性があるのではないかと思うので、例えば、アンデルセン環境軸とか、そういったものを東側に移せないものなのかどうか。

あとは、新しい構想として、こちらのほうに何かの案を植え付けてもらえないのだろうか。この図を見たときに、ボール遊び等ができる公園とか、社寺林。社寺林は、東西線ですか、それに沿ったところには印があるんですけれども、東側にも北側にもたしか大きな神社が、それも緑がかなり残った立派な神社があると思いますが、そういったところが落とされていないので、将来像図はもうちょっといいものにつくってもらいたいなと思いました。

#### ○木下会長

ありがとうございました。

続いて、岩崎委員。

#### ○岩崎委員

岩崎と申します。よろしくお願いします。

先ほどの文川委員のお話はすごくいいなと思って、やはり緑の確保、増やしていこうというのもいいと思いますし、保全というところも目標の中に文章として入れていただいてもいいのではないかなと思いました。

私は中部地区のほうに住んでいるのですが、一応、将来像図を見ると、ちょうど緑と薄い緑の骨格となるエリアと、あとは適正な管理を推進するエリアになっているのですが、

実際に住んでみますと、保全されているかな、推進されているかなと疑問に思うところが多くて、やはり田畑もほとんど耕作しているところが少なく、休耕地で、そこがどんどん資材置場だったりトラック置場だったり、宅地化はできないのですけれども、そういったところの面積が増えていっている。田んぼも一つもなくなりましたし。

そういった現状を住んでいて見ていると、地図だけで見ると田畑があっていいところなのかなとぱっと思われますが、実際に住んでいると、逆にそういった部分はどんどん減少の一方なので、やはり保全していただく。この後の施策などで細かな内容は決まっていくのだと思うのですが、減少する進行を防ぐような取組というか、そういう決まりを市のほうでつくっていただいて、規制していただくとか、守っていくというところにもちょっと視点を置いていただければと思います。

○木下会長

ありがとうございます。

堀江委員。

○堀江委員

今回が初めてだったのであれですけども、特段、この将来像あるいは目標、方針等についてはよくできているのではないかなという感想です。

私があえて言うなら、1点だけ、基本方針の1、2、4は分かるのですけれども、特に3に、前の計画に「環境にやさしく」という言葉が加わっていると思うのですけれども、これをあえて加えた理由がよく分からないなというのが感想です。「環境にやさしく」という言葉は、耳には聞こえがいいのですが、そういうものが果たしてあるのだろうかというのは、前からこのことに限らず思っておりまして、あえてこの言葉を3に加えた理由をひとつお聞かせいただければと思います。

○木下会長

事務局、お願いします。

○事務局（公園緑地課 本間係長）

ご意見ありがとうございます。「環境にやさしく」という言葉は、1とも少し似てくるのですけれども、環境という面で今回出てきています、将来像にも入れましたように、生物多様性の部分ですとか、都市環境の改善という部分も拾った環境としております。環境という言葉は、生活環境、都市環境と生物の生息環境もありますよと説明の中で申しましたが、今後、生物多様性、ネイチャーポジティブという部分を進めていく中では、この生息環境を含めた環境という部分について、より押し出していく必要があるというところを取りました。

また、「やさしく」という言葉なのですけれども、A3判で言うと1枚目のほうですね。船橋市の総合計画というものを右下のほうでご紹介させていただきましたが、こことぴったり合わせる必要はもちろんなのですが、この総合計画の「めざすまちの姿」の一つとして、「快適で豊かに暮らせる、人と環境にやさしいまち」という部分もありましたので、そこも引用して、環境に配慮していくよ、やさしくしていくよ、というところを表現したというのがこれを足した意図でございます。

○堀江委員

分かりました。

○木下会長

「環境にやさしく」というのはどこにかかるのですか。暮らしですか、緑ですか。私も改めて読むと当たり前だなと。環境にやさしい緑というのは当たり前ですし、環境にやさしい暮らしなら分かりますけれども、改めてご検討いただければと思います。

最後に、加瀬委員、ぜひお願いいたします。

○加瀬委員

すみません。自連協の加瀬です。同じ時間に会議が1つあったものですから、途中からの参加で今日の流れがよく分かっていないので、今日は発言しないで聞かせていただいております。

緑を増やすことは、確かに住民の目にもやさしいし、非常にすばらしいことかなと思います。ただ、増やしっ放し、植えっ放し、手を入れないとなると、今度、見た目にもあまりよくはないし、住民も満足度がどんどん落ちてくる場合もあるのかなと思います。

ちょっと話が飛びますけれども、鳥取のほうにある足立美術館というのは、公園なんですよ。きれいに手入れされた木があるんですけども、1キロほど先のほうによその山があります。その山の木が1本伸びてくると、こっちから見て醜くなるので、現地へ行って携帯電話で話しながら、これか、これかと揺らすんですね。揺れるとそれを切れと指示することをやられているそうです。そこまでしなくてもいいけれども、確かに行政が緑を増やすと、植えっ放しではいかんのかなと。お金もかかるし、いろんな部分でご苦労もあろうかなと思いますけれども、ぜひその辺も考えながら緑を増やしていただいて、市民が楽しく過ごせるような地域づくりをしていただければありがたいかなと思います。

まとまらない話で申し訳ない。よろしくお願いいたします。

○木下会長

ありがとうございました。それでは、一通りご意見をいただきました。ほかに追加でぜひという方がいらっしゃればお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

お願いします。

○鈴木副会長

この将来図の中で、先ほど、丸は大きい公園ですか、小さい公園ですかみたいな意見もありましたけれども、一番下のほうにふなばし三番瀬海浜公園というのがあります。ここだけ海に面していて、本当にこの丸では惜しいくらいな、いろんな生物多様性とか、ラムサール条約登録湿地を目指すところがあるので、海の近くの軸ということで、もうちょっと大きくしてもいいのかなという感想です。そういう検討ができればなと思います。

○木下会長

ありがとうございました。ほかによろしいでしょうか。

それでは、今日はたくさんの貴重なご意見をいただきました。それらを踏まえて追加反映するものとして、本日の計画の基本方針、それから計画目標、そして将来像図をお認めいた

だいたということで、決定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○木下会長

ありがとうございました。ご承認をいただきましたということで、御礼申し上げます。

それでは、すみません、時間を大幅に延長してしまいましたが、本日の議事は以上となります。ありがとうございました。

それでは、進行を事務局のほうにお返しいたします。

○事務局（公園緑地課 関谷課長補佐）

本日は貴重なご意見をありがとうございました。次回、第2回委員会につきましては、12月頃の開催を予定しております。時期が迫ってまいりましたら日程調整をさせていただきます。よろしくお願いします。

お車でお越しの方は、駐車券に押印をいたします。ご足労をおかけいたしますが、1階の総合案内で無料処理が必要ですので、忘れずにお願いいたします。

連絡は以上でございます。

○木下会長

それでは、これをもちまして、第1回船橋市緑の基本計画改定委員会を閉会したいと思います。長時間にわたり、ありがとうございました。

11時53分閉会